

第135回 労働政策フォーラム



ハローワークによる小学校 への出張キャリア教育支援

11
月
28
日
(木)

報告

群馬労働局
磯田 和博

ハローワーク群馬富岡（公共職業安定所）について



全国500カ所を超えるハローワークは、全国の豊富な求人情報をもとにした「職業紹介」のほか、「雇用保険」、「雇用対策」などの国の制度を組み合わせ、地域のさまざまなニーズに応じた雇用支援を実施。

ハローワーク群馬富岡は、職員数20名弱（うち正職員5名）と、全国でも最も小規模なグループに入る。

管轄地域：群馬県南西部の1市3町村 管内人口：約65,000人

各市町村の特徴

富岡市：世界遺産「富岡製糸場」がある。

甘楽町：江戸時代初期に織田信長の子孫の領地となり、小規模ながら城下町の風情を残す。

下仁田町：下仁田ねぎとこんにゃくが特産品。

南牧村：65歳以上が人口の68.2%を占め、移住者を積極的に受け入れている。

出張キャリア教育支援の目的

群馬労働局及び県内のハローワークでは、従来から職業意識形成事業として、職業についての講義や講話を高等学校で実施してきたが、社会環境の変化、雇用の多様化にあって、より早い段階での幅広い職業観の醸成が重要となっていることから、職員が作成したカードツール「ハロまるお仕事カード」を用いたキャリア教育支援を小学校の授業時間に実施することにより、早期からの職業意識形成を図る。

授業の目標

- ・カードにより自身の職業興味を知ること、多くの職業へ興味を抱く「きっかけ」を作る。
- ・多くの職業が存在し、それぞれが役割を果たすことで社会が維持されていることを学ぶ。
- ・興味を持った職業を、自ら調べる姿勢を育む。
- ・将来の職業人生で問題が生じた際、ハローワーク等の労働行政で相談できることを知る。

授業の「まとめ」で用いているスライド



- ・ たくさんのお仕事しごとがつながりあい、支えささあうことで、私たちは生活ができます。
- ・ どのお仕事も誰かの生活を支える大切な役割やくわりがあります。
- ・ 学校の図書室やお家の近くうち ちかの図書館で、気になるお仕事しごとを調べしらてみましょう。

「ハロまるお仕事カード」とは

旧版OHBYカードを参考に、イラストも含めて職員が作成した、**カードツール風**の「おもちゃ」。



OHBYカード = 本物のグランドピアノ



ハロまるお仕事カード = おもちゃのピアノ

おもちゃの役目は、楽しみながら子供たちの興味を育てて、本物への準備をすること。「きっかけ」作り。

「ハロまるお仕事カード」の特徴

- ・ 小学校の授業45分間に対応するためカードは**30枚**。
- ・ 「おもしろそう」・「やってみたい」と思うカードだけを**10枚選択**（10枚より少なくても可）。
- ・ カード裏面の職業説明文を平易な文章で作成。
- ・ イラストに、公式キャラクター「**ハロまる**」を使い、親しみやすい絵柄で作成。



「ワークシート」

その1 カードの絵を見て、あなたが「おもしろそう」・「やってみたい」と思ったカードを10枚選んで下さい。
10枚選べないときは、5枚くらいでもいいですよ。

その2 10枚の選んだカードを色（アルファベット）で分けて、六角形のマスに選んだ枚数を書きましょう。

その3 下の表の、選んだ枚数が多いカードの色（アルファベット）のタイプを選んでみましょう。

タイプ	あなたはこのタイプが好きかも?	このお仕事もやりたいかも?
R(観光的)	博物館や美術館が大好き! 博物館や美術館で何かを学ばない、観てみたい!	公園で花火をみたい、おもしろい! 水族館 博物館や美術館で何かを学ばない、観てみたい!
I(研究的)	調べることが好き 新しい発見が大好き!	博物館などで研究する... 宇宙探査 新しい発見が大好き!
A(芸術的)	音楽、絵、本が好き 美しいものを観ることが好き!	ドラマや映画の制作や演出... 音楽家 美しいものを観ることが好き!
S(社会的)	人に教えることが好き 人に教えられることが好き!	学校の先生や塾の先生... 音楽家 人に教えることが好き!
E(企業的)	新しいことをやるのが好き 新しいことをやるのが好き!	テレビやラジオの番組を企画する 新しいことをやるのが好き!
C(慣習的)	決まったことをやるのが好き 決まったことをやるのが好き!	学校の先生や塾の先生... 音楽家 決まったことをやるのが好き!

新緑が美しい国が、あなたの今のタイプですが、このお仕事も「好き」な方がよい! これからあなたは色々な経験をして成長することで、お仕事の経験やスキルを身につけていくことができます。

カードの裏には、お仕事の詳細が書かれています。興味を持ったお仕事を選び読んでみてください。

次のページへ

「カード」



公式キャラクター「ハロまる」とは

群馬県内の各ハローワークでも、それぞれ独自にキャラクターを作成し、広報に取り組んでいたが、ハローワーク上部機関の群馬労働局の発案で、SNSを活用して効果的な周知を行うため、職員からオリジナルのキャラクター案を募り、職員の投票で公式キャラクターに決定。現在、群馬県内ハローワークの様々な周知に活用。



「ハロまる」のプロフィール

群馬県が日本一の生産量を誇る「福だるま」がモチーフ。

七転び八起き（多くの失敗にもめげず、そのたびに奮起して立ち直る）の意味を持ち、また大願成就の縁起物でもある。

「就職・転職活動をする人々が失敗をめげず、前向きに何度でも挑戦する姿を応援・サポートするハローワーク」の思いを込めて起用した。

群馬県からは「豊かな自然・山脈」や「野菜」というイメージが連想されるため、緑色を使用。

SNS等で活用しやすいよう丸いフォルムで可愛らしく、また老若男女問わず親しみやすさを意識した。

だるまの模様は「HW（＝ハローワーク）」「G（＝GUNMA＝群馬の頭文字）」

アクセントに鮮やかなオレンジ色の県花レンゲツツジをプラス。花言葉には「情熱」「堅実」の思いが込められている。

小学校での授業実施例

- 1 ハローワークについての説明（4分）
クイズなどでアイスブレイク
- 2 カードの使い方説明（3分）
「やってみたい」「おもしろそう」と思ったカードを10枚選ぶことを説明
- 3 カードの選択（10分）
職員が教室を巡回しながら、選択が進まない児童をサポート
- 4 RIASECの結果説明（7分）
6領域を順に説明し、自身が最も多く選んだ領域に手を挙げてもらう
- 5 「ハロまるの部屋」を見て、連想する職業をグループで考えて発表（15分）
右のイラストを参照
- 6 児童数名から感想を発表（5分）
- 7 担任の先生からの一言（1分）

合計45分

スマホの部品を作る工場の人！

食べ物を売っているスーパーの人！

テレビアニメの声優！

家を建てた大工さん！



「ハロまるの部屋」



出張キャリア教育支援開始のきっかけ

始まりは、甘楽町の小学5年生の保護者からの要望

コロナウイルスの影響で、この3年間社会科見学が中止になり、**子ども達の小学校での体験機会が少ない**のです。
子ども達が**ハローワークを見学**することはできますか？



保護者

見学を受け入れる場合に想定される問題

- ・ハローワークで仕事を探している方のプライバシーが・・・
- ・そもそも、パソコンが並んでいる事務室を見学しておもしろいだろうか？

それなら、ハローワークが小学校へ出張しよう！

何をすれば子ども達は喜んでくれるだろうか？
高校などで実施している「職業講話」？

ハローワークには小学生向けイベントのノウハウがない。

イベントの試案を作り、子ども達の事を一番知っている、小学校の先生に相談しよう！

2週間をかけて、小学生がハローワークの職員役と求職者役になり、シナリオに沿って職業を紹介するロールプレイの試案を作成。

先生はロールプレイに全く興味を示さず・・・
第2案として用意していた「OHBYカード」に先生は興味を持つ。

先生からの要望

代表の児童だけが体験するのではなく、**クラスの35名全員が体験できるようにしてもらえませんか？**

48枚から選ぶと45分の授業時間に収まらないので、**カードを30枚に減らせますか？**



先生

ハローワーク内でも「**学校だけでなく、児童がカードを家に持ち帰り、保護者と一緒にカードを使って将来の職業を話し合えたら、すごくいいね**」という意見がでる。

ぜひ実現したいが、毎回人数分のOHBYカードを購入し、体験学習後、児童が家に持ち帰ることは予算的に難しい・・・



このタイミングで「ハロまる」が公式キャラクターに決定。

「ハロまる」を描いた職員にイラスト作成をお願いし、「ハロまる」を使った職業カードを作れば、予算をかけずに児童が家に持ち帰れる！
作成するカードも30枚なら負担は少ない！

でも、OHBYカードを参考にして、勝手にカードを作ったら、著作権的に問題があるのでは・・・

無理を承知で、労働政策研究・研修機構にお願いしてみよう！

労働政策研究・研修機構から「無償で児童に提供する」という条件で許可をいただき、作成を開始。

4ヶ月間をかけて「ハロまるお仕事カード」が完成。
令和5年3月、甘楽町立小幡小学校の5年生35名に初めての支援授業実施。

実施状況

実施先	令和4年度		令和5年度		令和6年度	
小学校	1回	35名	12回	573名	12回	704名
中学校			3回	194名		
その他イベント			1回	65名	9回	360名
計	1回	35名	16回	832名	21回	1,064名

※令和6年度には、11月現在で実施が決定しているものを含む

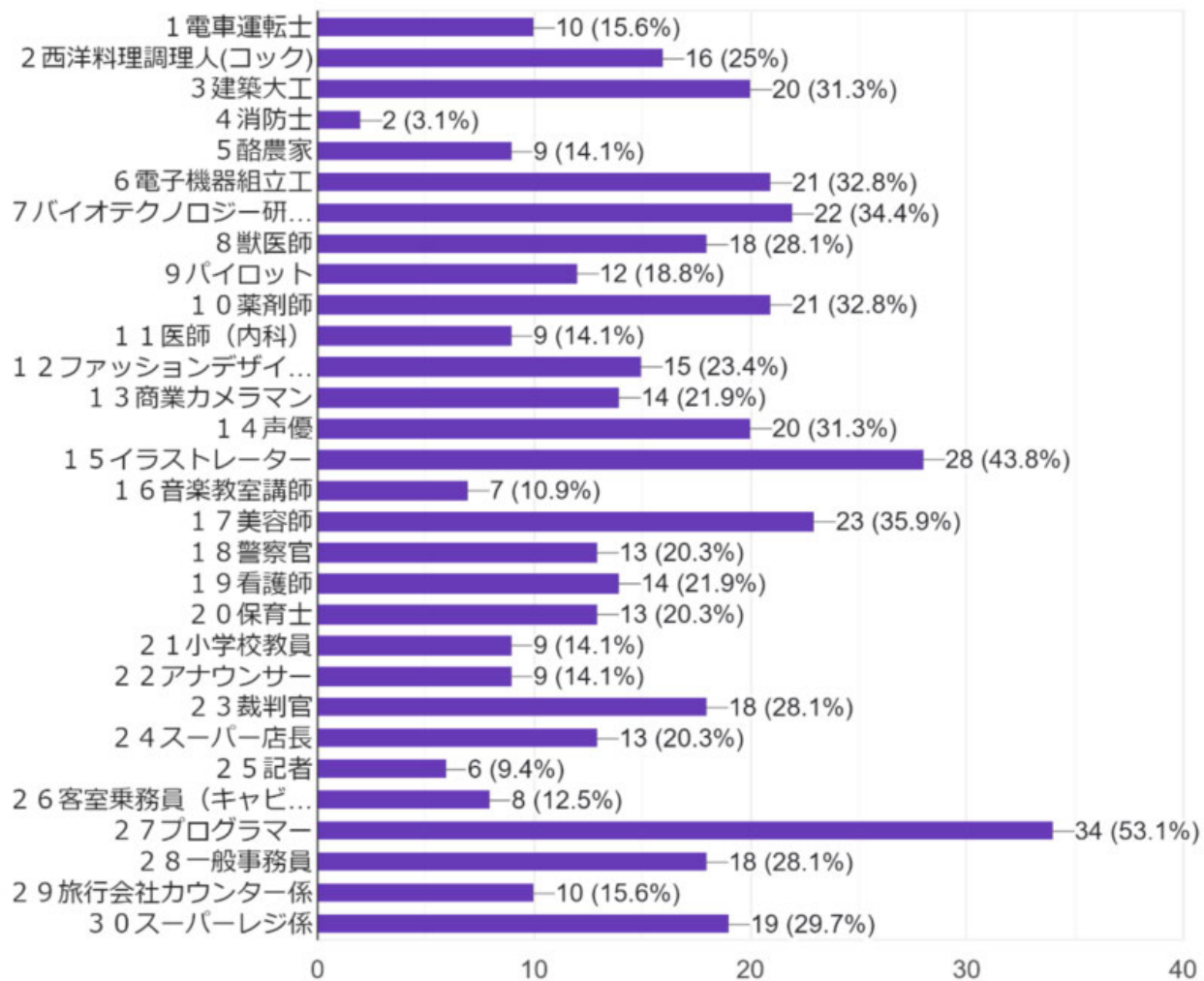
これまでテレビ2回、新聞6回の取材を受ける



アンケート結果

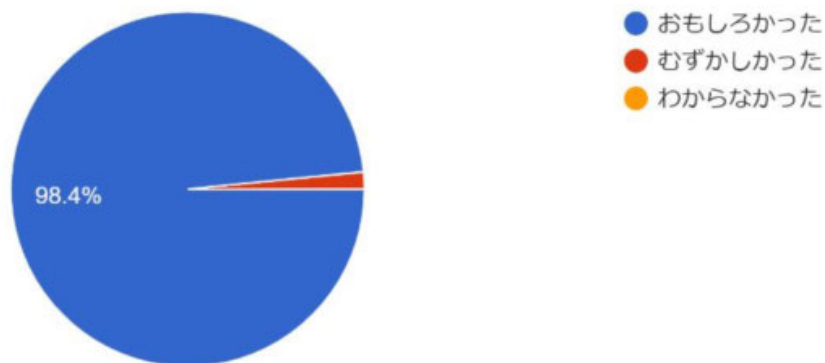
3 「おもしろそう」・「やってみたい」と思ったと…。 (あてはまるもの全てを選んでください。)

64 件の回答



4 「ハロまるお仕事カード」の感想をおしえてください。

64 件の回答



先生、保護者からの意見の反映

初期の授業は、OHBYカードと同様に「やってみたい・やりたくない・どちらでもない」の3択だったが、下記のようなことがみられた。

- ・「自分はサッカー選手になるので、やってみたい仕事はない」
- ・30枚全てを「どちらでもない」に仕分けてしまう。
- ・選択に悩み、45分の授業時間内で仕分けられない

職員がサポートをしながら、全ての児童が時間内にカードを選択できるようになった

3択よりも、「おもしろそう」「やってみたい」と思うカードを10枚選ぶように誘導した方が、小学生の児童には考えやすいのでは。



先生

初期の授業では、「多くの職業が存在し、それぞれが役割を果たすことで社会が維持されている」ことを、職員から説明する流れ。

職業を連想するグループワークを取り入れたことで、児童が積極的に発言し、職業の持つ役割をより深く学べた

もっと子ども達が話し合う時間を作ってみては。



保護者

先生、保護者の声

先生からの声

- ・ 翌年も実施してもらい、子ども達の変化をみてみたい。
- ・ 自分たちも知らなかった、子ども達の一面を知ることができた。
- ・ 6年生の修学旅行で「キ〇ザ〇ア」に行くので、その前に実施をして学習効果を高めたい。
- ・ 学校でのキャリア教育に手詰まり感がある。ハローワークの支援はありがたい。

保護者からの声

- ・ (授業参観日実施時) この先生の授業おもしろいね。えっ、ハローワークがやってるの!?
- ・ (親子で参加するイベント実施時) ハローワークがこういう事に取り組んでいるとは知らなかった。いい話が聞けて良かった。

当初から、先生、保護者の意見を反映して作ってきたことで、現在の評価に至った

課題と今後の展開

- ・ 毎年、実施学校の広がりをみせてはいるが、まだまだ小学校にとってはハローワークのイメージが薄い。
→ キャリア教育支援を経験した先生が他の学校へ異動し、そこで再び実施してもらうことを通じて拡大に期待。
- ・ 改善点を即反映できることが職員の手作りによるメリットだが、一方で負担も大きい。
→ 「ハロまる」の造形を学習させた、画像作成 AI の導入を試行中。

今後の展開

- ・ 他県の労働局、ハローワークでも興味を持ちはじめ、資料を提供し、授業を実施したハローワークもある。細く長く取り組んで、すそ野を広げていきたい。
- ・ 東京、関西など大都市圏にある「社会のしくみを学ぶことができる施設」のような内容を、距離的に気軽にいくことが難しい地域の児童が擬似的に体験できるような内容で、小学校高学年、中学校において予算がかからない形で将来的に実施したい。